

## 令和4年度「知事と市町長の円卓対話」（尾鷲市）概要

- 1 対話市町 尾鷲市（尾鷲市長 <sup>かとう</sup> 加藤 <sup>ちはや</sup> 千速）
- 2 対話日時 令和4年10月24日（月）15：10～15：40
- 3 対話場所 三重県立熊野古道センター（尾鷲市向井12-4）
- 4 視察場所 みえ尾鷲海洋深層水利用協議会 アクアステーション
- 5 対話項目
  - （1）尾鷲総合病院の医師不足の解消について
  - （2）熊野古道世界遺産登録20周年記念事業について

### 6 対話概要

#### 対話項目（1）尾鷲総合病院の医師不足の解消について

（市長）

尾鷲総合病院は、医療圏は尾鷲市、紀北町、熊野市の一部を抱えており、人口約3万3千人の医療圏で、一般病床のある唯一の病院です。また、二次救急の告示病院であり、24時間365日の救急医療を担いながら、この地域の開業医のマンパワーが非常に足りなくなっているため外来診療などの開業医の役割まで担っているのが現状です。地域医療の中心的役割を担うとともに、地域包括ケアシステムの分野でも重要な役割を担っていることから、尾鷲総合病院は尾鷲市と紀北町の医療行政において大変重要な病院です。しかし、平成16（2004）年、初期研修制度が始まった頃から尾鷲総合病院は徐々に医師が減少しています。本年6月、院長が退職することに伴い、内科の常勤医師が1名減少しました。

平成21（2009）年から県が先駆けて推進し継続しているバディホスピタル制度により、伊勢赤十字病院から内科の常勤医師を派遣してもらっていたのが中止となったことで、合計2名減少しています。さらに、三重大学から整形外科の常勤医師の派遣2名だったのが、三重大学の都合により1名に減少するなど、医師不足は尾鷲総合病院の維持存続にかかる大変重大な事態を迎えています。

医師不足の影響により、内科では、外来患者を抑制しているため開業医を紹介したり、入院患者を抑制したり、一方では救急外来対応を制限するなど、医療サービスに大きく支障をきたしている現状です。整形外科では、常勤医師が1名に減少したことで手術を要する救急患者に対応できなくなっており、伊勢や松阪への管外搬送を余儀なくされています。最近の事例では、病院前で起きた交通事故により骨折した救急患者が当病院では対応できないため、松阪中央総合病院まで搬送された事

例がありました。

一方、県内の医師の総数は近年増えているものの、医師の地域の偏在化が叫ばれ続けて 10 年以上が経過していますが、まだまだ改善にほど遠く、診療科の偏在化も課題となっています。

今後は、医師の働き方改革により、大病院はより多くの医師が必要となったこと、医師の集約化がさらに進み、尾鷲総合病院のように対象人口の少ない地方の病院の医師不足はますます厳しいものになることが懸念されます。このような状況下では、特に公立病院の立場が大変苦しい状況にあるため、これらの問題の解消を求めます。

(知事)

行政の一番の使命は、市民の命を守ることにあるので、医療はすごく大きな割合を占めると思います。三重県は、医師の数は残念なことに不足しており、10 万人当たりの医師数は全国 47 都道府県中の 35 位です。ただ最近では医療行政の努力の結果、過去 10 年間で 10 万人当たりの医師数が 41.5 人へ増加し、増加割合数は全国 14 位です。県内の医師数の減少・不足の要因としては、医局制度がなくなったことで若い医者が修行のため東京などの都会に行ってしまうということがあるようです。三重県全体の医師数を増やすために修学資金制度も設けていますが、想定以上の利用はないため検討しないといけません。重要なのは、三重県が若い医者にとって自分のキャリアアップができる魅力のある県である、ということを発信することです。例えば、四日市の県総合医療センターは、救急もあり、自分のキャリアアップもできるという理由で他の県から来られている例もありますので、東紀州地域の方でも医療行為をしてもらえるよう、県全体でのキャリア形成の応援と、県全域で活躍してもらおうことを合わせてやっていく必要があると思っています。

尾鷲総合病院は、この地域の中心的な医療活動拠点であると思っています。三重大の池田院長とも相談をさせていただきます。三重大院長も尾鷲に来られて、これからのようにしていこうかとお話をさせていただいたと伺っています。医療界の人たちとしっかりタッグを組んで取り組む必要がありますので、医療関係者の方々との定期的な懇談会をこれから作っていこうと思っています。

修学資金の制度について、例えば三重県出身の学生で他県の医学部を卒業した後は 9 年間三重県で働くことを条件として修学資金を給付するという制度があるが、個人情報の問題もあり、県内外の医学部をめざす高校生やその親御さんに修学資金制度の案内が届いていないという現状があります。高校の理解・協力が必要になりますが、案内を届ける地道な努力をして、三重県へ帰ってきてくれる医師を増やすことが大事だと思います。

(市長)

バディホスピタル制度について、これまでの業績を維持するためには、伊勢赤十字病院が派遣可能となるまで、他の病院からバディの派遣を要望します。現状において、人口 10 万人あたりの医師数を医療圏ごとに算出した場合、東紀州より医師数が多い中南勢地区に対して、三重県は自治医大の出身の医師を派遣しています。東紀州管内には尾鷲総合病院と紀南病院がありますが、県は、尾鷲総合病院より内科の患者数の少ない紀南病院へ自治医大の医師の派遣が行われていますが、尾鷲総合病院へ派遣はゼロになっています。結果、現状では内科医の医師数は紀南病院の方が多くなっていることから、地域の医師数の偏在化を解消するため、自治医大の医師の派遣先の再構成を要望します。

(知事)

バディホスピタル制度について、来年度から伊勢赤十字病院から尾鷲総合病院への派遣数を元に戻すという話になっているようです。それまでの間、どんなことができるか、現に医療保健部から三重大に話を聞いており、少しでも前に動かしていきたいと思っています。

(市長)

総務省から求められている経営強化プランについて、基幹病院から地域の病院へ医師を派遣することなど、県が各地域の病院の医師を確保することが役割として求められています。今後、県は、医師確保をどのように計画に位置づけ、実行される予定なのか、現在のお考えをお聞かせ願いたい。

(知事)

自治医大では県の負担金で、年 2～3 人の医師を養成しています。ご要望よくわかりましたので、特に東紀州地域には、全県を見渡してバランスのいい配置を考えていくべきだと思います。バランスのいい配置を含めた令和 6 年度からの次期の医師確保計画を作っていくので、今日いただいたご意見を反映させていきたいと思えます。

(市長)

要は、尾鷲総合病院はいま内科の常勤医師は 4 人しかいない、本来は常勤医師 6 人でカツカツな状況です。

不足する医師 2 人について、1 人はバディホスピタルで伊勢赤十字病院から派遣を。バディがくるまでどうするか。整形外科も足りない。市では名古屋大学や藤田医科大学や、防衛医大など色々な大学を回ったり、医師確保のための派遣会社にも

登録しています。現在、外来の診察はできたとしても入院の方が全然診ることができない状況です。これは市民の安全に対して非常に大きな問題です。病院の経営上は、これだけ入院患者数が落ちることによって収益が減茶苦茶。内科においては、紀南病院は8人常勤医師がいますが、尾鷲総合病院は4人しかいません。尾鷲総合病院の方が治療患者が多い中で、完全にアンバランスになっています。実情を知事にご理解いただき、尾鷲総合病院を元の状態の近くまで戻せるよう、ご協力をお願いします。

(知事)

実情よくわかりました。解決には時間がかかると思うが、その時間をかけても何とか前に進めていかなければならない。入院患者の受け入れは、すぐには難しいかもしれないが、例えば診察にリモートを使うという方法があります。

コロナ禍で、MRTという8万人の医者登録しているリモートの診察システムを作った、三重県出身の医師の方がいます。県もこの方にコロナの関係でお手伝いをいただいています。そういった方にお手伝いいただくという方法も一つあるかなと思います。収益の関係は、各病院が相当厳しいがコロナ交付金で少し余裕を持てるようになっていけば、またこれからも先に向けて進んでいけるかなという気もしています。

医師数のことは、尾鷲だけではなく、三重県全体の話だと思います。県全体の医師数について丁寧にやっていくしかない、地道な活動をやりながら、どうやって三重県に来てもらうかを考えていくしかないと思います。

## 対話項目（2）熊野古道世界遺産登録20周年記念事業について

(市長)

熊野古道は、平成16（2004）年7月7日に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録され、令和6（2024）年には登録20周年を迎えることとなります。加えて、尾鷲市においては市制70周年も同年に重なっています。これをうまく交流人口を高めるための一つの大きなきっかけになるよう、令和5（2023）年度からのイベントの内容を含め、現在、検討を進めています。

熊野古道を活用した事業としては3年ぶりの開催として、本年11月19日から20日までの2日間、第17回おわせ海・山ツアーウォークを開催して20周年に向けた機運の醸成を図っているところであります。県におかれても南部地域活性化局、東紀州振興課が中心となり、我々と議論を重ねながら、いかに東紀州に人を集めながら、熊野古道20周年の地域展開と次へつなげていく話し合いなどいろんな企画

立案に取り組んでいただいています。非常にありがたいことでもあります。本日の会場である「熊野古道センター」を最大限活用し、本市以外の市町の活動推進も含めて、東紀州一帯が周年記念事業の推進を望んでいます。

私は、20周年が熊野古道を全国に再認識していただくためのスタートラインだと思っていますので、ぜひ、知事よろしく願いいたします。

ホテルなど宿泊先について、尾鷲は非常に不足しています。その部分は、熊野市や紀北町と協力関係を保ちながらやっていかないとはいけません。

特に和歌山県については、高野山や熊野三山などいろいろな紀伊山地の霊場があります。その通り道で伊勢神宮へ行くこの参詣道を我々はうまく活用しなければなりません。いたるところにその部分を、点々できちんとした何か、ちょっととんがり帽子的なものをやっていかなければなりません。

そうするとやはり、我々東紀州の5市町の首長は、これらの自然豊かなものをどうやって生かしていくか、それを使っていくためにも、皆さん方が、歩いて楽しく、きちんと安全安心に気持ちよく体験していただけるような、そういうインフラ整備をやっていかなければなりません。当然これは担当部局の方といろいろ話しながら県としてやっていただくこと、尾鷲市としてやっていくこと、あるいは東紀州の5市町でやっていくこと。これを早急にいろんな形で立ち上げていただきたい。もう再来年の話ですので、だいたい今年ぐらいに、例えば委員会なりを発足させながら、来年、きちんと1年かけてやっていくと。そうしないと、また15周年の時のような、行き当たりばつりのものになってしまうんじゃないかと常に思っています。私は今年の初めぐらいから、県の部局、或いは副知事の方にも申し上げております。ぜひ、もう副知事の方にガンガン言っていただいて、遅すぎるっていうようなね、立ち上げが、もうぜひお願いします。

最後に、要するにやろうという意思是皆さん共通しております。委員会なり、プロジェクトの立ち上げ時期を早く、私としては、県主導型でやっていただきたい。我々は市政70周年について腹案で、だいたい話をやっておりますので、もう早く委員会として立ち上げていただけないかと強くお願いしたいと思えます。

(知事)

熊野古道は、日本の中で最後に残された観光地ではないかなと思います。何らかイベントを打って、年に1回は人が来るようなことを今、南部地域活性化局で検討をしています。問題は、東京から距離があるということ、空港は南紀白浜空港はありますが近くに無いので都会から人をどうやって来訪させるか、それを考えないといけません。来訪するためのアクセスとして今は高速道路は熊野まで繋がっていますが、名古屋から車で来ると2時間半位かかります。遠いですがその分、1泊、2泊してもらって、ゆっくりしてもらったらというのはあります。しかし宿

泊施設もそんなには無いということで、宿泊施設の誘致について今、県の観光局で検討しています。観光のインフラが全然できていないところですが、熊野古道には観光する魅力があります。周辺のインフラを作るということでようやくその議論に着手し始めているところです。すぐには結果は出ないと思いますが、今からやっていかないといけない。和歌山の方の熊野古道は、かなり外国人にも人気で、田辺まで外国から旅行客が来るんです。その旅行客を伊勢路の方に引っ張ってくる、これが必要かなと思います。

本年 11 月、和歌山県と奈良県との 3 県知事会議を開催します。その時に本県から「熊野古道」を取り上げて、3 県で協力して熊野古道を盛り上げて、観光客の誘客につなげていきたいと思いますと提案を考えています。私自身もしゃかりきになって頑張っているところです。どういう形で観光客の宿泊する場所を増やしていくのか、これから研究していこうと思っています。もし、ホテルを作ってもいいというところがあれば願っていますし、そういったところに声をかけてこっちに出てきませんかということをお話をしていきたいと思っています。そういう意味では、尾鷲市さんもぜひご協力をいただいて、貴重な人脈も使っていただいて、宿泊場所を増やして、観光客を増やしていく相談をさせていただきたいと思っております。

20 周年事業について、5 年ぐらい前から取り組まないといけないこと。進め方がゆっくりだと良いものはできません。今からしっかりとやっていかないといけない。観光政策、私も、知事になって議論していますが、行き当たりばったりというのは、私も感じる場所です。しっかりと議論して積み上げをやっていく。20 周年の事業について、観光客の誰から見ても、本物だと見分けがつくような本物を提供できるようにしっかりとやっていく。今日、お話も伺いましたので、戻ってまた南部地域活性化局と観光局とにしっかりと進めていくようにします。今日は南部地域活性化局長も来ています。やらなければならない話です。しっかりとやってくれると思います。しっかりと頑張っていると思います。